

特別支援教育部会

研究主題 一人一人の個性を生かしながら、社会適応能力を高めるための
自立活動の在り方

～教科指導における自立活動の在り方～

1 主題について

特別支援教育における自立活動の指導は、各教科を含めた教育活動全体で行われることが必要である。そこで、今年度も昨年度の研究を継続して、教科指導における自立活動のあり方を研究することにした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月14日	第2回総合研究会 授業研究会（成章小学校）

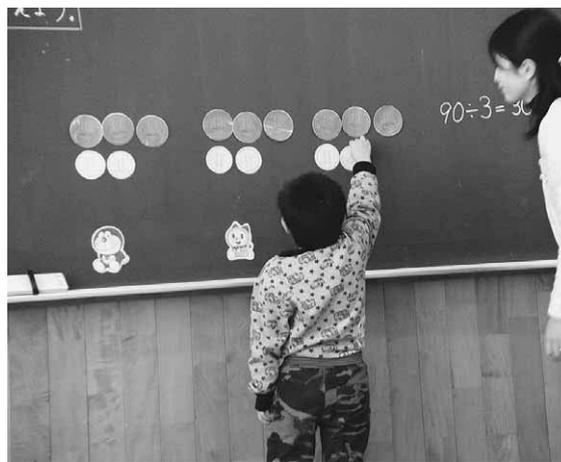
3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年11月14日（木）
- ・会 場 成章小学校
- ・単元名 3年 算数「なかよしわり算 ふくろわり算」
- ・授業者 佐々木 真友子

① 授業者から

- ・軽度の知的遅れがある児童で、自立活動のコミュニケーションと人間関係の形成を取り入れて授業を行った。
- ・コミュニケーションについては、言語表出が少ない児童であるため、操作を取り入れて思いを見取るようにした。また、振り返りでは言葉を提示して、発表できるようにした。
- ・人間関係の形成については、理科と社会を交流授業で行っていることから、交流と同様な板書やノート指導を行って、集団での指示が入り易いようにした。
- ・児童の実態や力を考えて、どこまで算数の力を求めていったらいいかを判断するのは難しい。



【具体物の操作】

② 協議

- ・児童の好きなキャラクターを生かし、ストーリー性のある学習場面が設定されていた。それが、学習への意欲を高めていた。
- ・生活とかかわる硬貨を具体物として用いていた。硬貨を使ったことで、わり算をイメージしやすくしていた。具体物は有効であった。

- ・位を意識させるために、位取り表を使って、具体物を縦並びにするとよかった。
- ・コミュニケーションの力を伸ばすために、計算の順序を声に出して説明する場があればよかった。キーワードを使って話させたり、計算の順序の話型を示したり、具体物の操作に合わせて話させたりするとよかった。
- ・硬貨を移動した跡を黒板に残すとよかった。
- ・黒板だけではなく、児童の手元にも硬貨を置いて、自力解決をさせる時間を設けるとよかった。
- ・優しく安心感のある話しかけや、しゃがんで視線を合わせながらの対応など、教師と児童の関係のよさが感じられた。



【振り返りの様子】

(2) 指導助言（伊藤 登美子 指導主事）

- ・ドラえもんが好きという児童の興味・関心を生かした単元作りがよかった。それが、わり算に取り組むための内発的動機付けにつながっていた。
- ・児童の主体性を育てる対応ができていた。1対1の学級では、教師主導になりがちだが、今日は、自己選択をさせる場面（誰に分けるか、ノートか黒板かなど）があり、児童の主体性を育てる工夫があった。
- ・今日の授業は、自立活動のコミュニケーションをふまえた授業であった。問題を提示した時に、「ひとしく」という言葉の意味を確認したり、『使ってみようこの言葉』を手がかりに振り返りを発表させたりしていたが、コミュニケーション（3）言語の形成と活用に関する内容に関わる内容であり、語彙の拡充を図り、児童の言葉を広げようとしていた。
- ・課題の設定について

特別支援教育では、生活に結びついた課題の設定が重要である。96円を3人で分けるのは、日常生活ではあまりありえない設定である。また、96は10が9個と6の構成であるという考え方ができなければいけないが、今日は、硬貨を使ったことで、児童が自ら10が9個であると捉える部分が省かれてしまった。（児童の実態から考えると）10のまとまりを作るという操作は省かずに、その操作も取り入れることで、文章や計算の意味の理解や単位の考えに基づいた考え方を確実なものとするのが大切である。

- ・実態に応じたねらいと活動について

実態から考えると、ねらいにある「進んで説明する」を要求するのは難しい。「話型を用いて」や「操作を通して」をゴールにすると、自立活動のねらいにもつながる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・児童の興味・関心を生かした単元構成と意味理解を助けるための具体物操作があった。
- ・算数科の授業の中に、自立活動のコミュニケーションをふまえた指導があった。

(2) 課題

- ・生活に結びついた課題設定や児童の実態に即したねらいの設定が必要である。